

# MJOT 会報



あいさつ  
ご挨拶

国際交流基金ブダペスト日本文化センター  
日本語専門家 三森 優

みなさま、はじめまして。7月半ばから柳坪幸佳専門家の後任として赴任しました三森優と申します。私はこの6月まで、お隣 ウクライナのキエフ国立大学におりました。お隣にいたということもあって、実は今回の赴任までに、2009年2月の中東欧ネットワーク会議へのオブザーバー参加から教えて既に3回、ブダペストにはお邪魔しておりました。私は隣の国で、「ハンガリーの日本語教育界は非常に活発に活動しているな、負けてられないな」と常々思っておりました。しかし、まさか自分がブダペスト日本文化センターのスタッフになるとは思っておりませんでした。もしかしたら、お隣にいたことがご縁となったのかもしれませんが、今回、そんな熱意あふれるハンガリーにいられて大変光栄に思っております。

これまで既に3回ブダペストにお邪魔していたと申し上げましたが、そのうち最初の2回は滞在先とブダペスト日本文化センターまでの往復で時間が過ぎてしまい、ゆっくりと街を散策する時間もなく、ブダペストという街がどのような街なのかよく分からないままでした。しかし、5月に引き継ぎのため出張で訪問した際は、幸運にも街歩きに使える時間が多少ありました。その時に私は心底驚きました。初めて歩いて見た「ドナウの真珠」。私はこれまで「中央アジアのスイス」や、「ヨーロッパの中心地」と土地の人々が自称する国にりましたが、それは日本語で言うところの「〇〇銀座」のようなもの。日本の人々の「銀座」という場所への憧れを表しているのと同様、実はヨーロッパへの憧れを言葉にしたものではないかと思えます。確かに、私がこれまで過ごしてきた国々には、ヨーロッパに擬えたいくなるような、それぞれの国の美しさがありました。しかし、それはヨーロッパと比べる必要のない、その国ならではの美しさであって、ヨーロッパとは異なるものでした。そのような国と比べると、ブダペストという街は正にヨーロッパそのもの。荘厳な鎖橋のかかるドナウ川の河岸には、王宮を始めとした美しい建築物が川面にその姿を映し、ドナウ川では大小様々な船が行き交う。「ここはヨーロッパだ」、その事実を眼前にし、私は暫し圧倒されました。

人々が憧れるヨーロッパの地で、しかも画期的な独自の新しい日本語教材も出版しているハンガリーという国。そんな場所でこれから共にこの土地の日本語教育に携われることは、とても嬉しいことです。現在、皆さんも良くご存知の通り日本語教育界は新しい方向へ舵を取り始めています。そして、このハンガリーという国はその流れを先導する役割を、今この時も担っています。私は、これから皆さんと一緒にそんな“エキサイティング”な時代を過ごせることが、楽しみでなりません。今後、皆さんにご協力を仰ぎながら、皆さんに少しでも還元できることがあるよう、日々取り組む所存です。JFスタンダードやCEFRと共に歩むこの新しい「時代」に、皆さんと一緒に日本語教育に関われる幸運を無駄にしないよう、頑張ります。何卒宜しくお願い申し上げます。

第16回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム (2011年8月24日~27日、エストニア：タリン) に参加して  
ブダペスト商科大学, AJE元副会長  
セーカーチ・アンナ

2011年8月24日から27日にかけてエストニアのタリン大学で第13回ヨーロッパ日本学国際大会が開催されましたが、その分科会として第16回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムが行われました。ヨーロッパ日本語教師会 AJE は1996年以来毎年独自のシンポジウムを開催してきましたが、この度は3年に一度行われるヨーロッパ日本学研究会EAJSの国際大会に、日本語教育のセッションとして参加しました。

このシンポジウムの参加者総数はおよそ700人ほどで、そのうち日本語教育関係者は120人を超えていました。AJEのセッションでは、基調講演、パネル発表3、個人発表33、ポスター発表15が行われました。

初日の開会式の後、会場のタリン大学講堂には、元東京大学教授上野千鶴子教授の基調講演を聴くために入りきれないほどの聴衆が詰め掛けました。講演は、東日本大震災の教訓を女性学と当事者主権の視点から分析したもので、日本の将来について深く考えさせられる内容でありました。

シンポジウム基調講演の後、AJEのセッションは、発表数が多く、2つの会場に分かれて、翻訳論、日本語教授法、評価、CEFR、異文化理解、コンピューター言語学、サハリンやシリア等の世界の日本語教育事情と多岐にわたって行われました。また、2つの会場でポスターセッションも開かれて、人気を集めました。初日にはタリン市の誇るクム美術館で盛大なオープニングパーティがありました。ヨーロッパ日本学の国際会議ということで広い分野の研究者が集まって、参加者は、内外の旧知の研究者に再会したり、また新たに知り合ったりしつつ、研究者ネットワーク作りに励みました。

AJE セクションでは、伊藤祐郎東京外国語大学教授による「評価とコースデザイン」をテーマにした基調講演は満席で、質疑応答の際同日のパネル発表のテーマでもあった「評価」について多くの質問が出されました。「CEFR文脈化のための教師研修を考える—課題からの出発」と題されたパネルもあって、評価に関するヨーロッパでの関心の高さがうかがえました。現在ヨーロッパの日本語教育関係者にとって主要な関心テーマのひとつである CEFR を取り上げた研究や報告は、応募も多く、発表では、会場は満席となって、質疑応答も大変活発に行われました。ポスターセッションは、部屋がやや狭かったにもかかわらず人気を集めました。

AJE シンポジウムは、日本語教育分野の研究者や教育関係者が一堂に会して、互いの問題や共通の課題などをシェアすることができる会ですが、今回は日本学の国際学会というより大きな場で、ネットワークもさらに広がったように思われます。

16. Európai Japán Nyelvoktatási Konferencia (2011. aug. 24-27., Tallinn, Észtország) (Székács Anna, BGF)

Az Európai Japán Nyelvoktatók Társasága (AJE) 1996 óta rendez minden évben japán nyelvoktatási konferenciát. Az idén először közös rendezésben az Európai Japanológusok Társaságával (EAJS), annak 10-es szekciójaként mutatkozhattunk be. Két teremben három napig párhuzamosan folytak az előadások, panel-beszélgetések, és poszter előadások. Felkért előadónk Itoh professzor, a Tokió Idegennyelvi Egyetemről, aki az értékelés kérdéséről tartott nagy érdeklődést kiváltó előadást. Központi témája volt a konferenciának a KER is, melyről magyar előadás is elhangzott.



## 『今年の言語パレード』 もみじ日本語学校

ガーシュパール・アンナマリア



皆様、初めまして。もみじ日本語学校のガーシュパール・アンナマリア (Gáspár Annamária) と申します。私は、2010年1月に ELTE 大学人文学部日本学科を卒業して、日本語教師資格も取得しました。2010年9月から半年ほど日本へも留学しました。2008年より日本語教師になり、2011年4月からもみじ日本語学校に勤めています。

今年も、9月2日～4日に『言語パレード』が開催されました。全国に報道されるこの催しは、九月の始めに、新しい外国語を学びたい、あるいは外国語教育に関して詳しい情報を得たいと思っている方を対象に、三日間開催されるイベントです。言語パレードは、外国語教育機関が活動を宣伝紹介でき、来訪者は、経験したことのない言語の面白さを味わうことができる素晴らしい機会です。

ミレナーリシュ B館で開催されたパレードに参加した言語学校、試験センター、留学エージェント、教科書出版社の数は、以前にも増し90近くに及びました。開会式と共に『ヨーロッパ言語賞』の授賞式も行われました。また、『ラテン・アメリカ祭り』や、『アフリカ祭り』もパレードと同時に開かれました。

日本語のブースには、MJOT、国際交流基金ブダペスト日本文化センター、そして白熊グループとの共催という形で、もみじ日本語学校も参加させていただきました。今回初めて『言語パレード』に参加した私にとって、その三日間を本当に楽しくすごしました。

日本語のブースは、英語、ドイツ語、フランス語などの他の言語に比べ、新鮮味があり、面白いと思えました。(日本語の他の東洋言語は、チベット語、サンスクリット語、パーリ語の小さなブースだけでした。)ブースでは、ハンガリーにおける日本語教育、日本語講座の紹介、情報提供以外に、MJOT開発教材や白熊により製作された日本語学習関係の商品の販売もあり、かなり盛況でした。日本語教科書『できる I』の紹介も同時に行われ、出版・発売を担当した Nemzeti tankönyvkiadó のブースでは、一番人気の教科書であったそうです。

日本語講座に申し込んだ方も当初の予想以上でした。ブースにいらした方々の中には、日本語を学んだ経験があって、新しい本、出版物や学校探しの目的で来た方のほかに、『漢字』ということばすら初めて聞いたが、このパレードで興味を持ち、今から始めたいと話す方もいました。

今年も、ハンガリー人のみならず外国の方がいらっしや、年齢層も小学生から70代の方々に及びました。

日本関係の雑貨で美しく飾られたブースでは、日本語教育だけではなく、日本文化紹介も重視され、MJOT・白熊の手がける日本雑貨の販売も行われ、また、折り紙の展示も人気が高く、ブースはいつも賑やかでした。特に書道の実演の人気が高く、カタカナで自分の名や好きな漢字、ことばを書いてもらうことを希望する方の数は驚くほど多かったです。

このように、日本や日本語に興味を持っている大勢の方を日本語学校という枠を越えて垣間見られたのは、本当に印象深かったです。また来年も是非参加させて頂きたいと思っています。

ご支援、ご協力くださった MJOT の皆様、関係者各位にお礼を申し上げます。



## Urawában jártam...

Horváth Krisztina

国際交流基金の浦和センターに行っ、参加した日本語教師の短期研修の感想です。

Idén nyáron részt vehettem egy két hónapos nyelvtanári továbbképzésen a Japán Alapítvány urawai központjában, az itt szerzett benyomásaimról szeretnék röviden beszámolni. A továbbképzés 50 résztvevője 30 országból érkezett, Európából hatan voltunk: Esztónia, Lengyelország, Finnország, Oroszország (Szent-Pétervár), Lengyelország és Magyarország.

A továbbképzés három fő célja:

- \* a nyelvtudás fejlesztése 「文法」 illetve 「総合日本語」 órákon,
- \* módszertani órákon a JF 「日本語教授法シリーズ」 könyveinek bemutatása
- \* és 「日本文化体験」, ebbe beleértve a tokiói városnézést, kalligráfia, ikebana és teaszertartáson való részvételt, kabuki előadás megtekintését.

Az órákon kívül részt vettünk japán középiskolásokkal és egyetemistákkal egy 2 napos szemináriumon, opcionálisan volt home stay-program, és a hivatalos program befejezése után egy szintén opcionális 5 napos 「研修旅行」 Hirosimába és Kiotóba. És természetesen volt még sok 発表, még több 振り返り, és アンケート、アンケート、アンケート・・・

A legmeglepőbb és elgondolkodtatóbb élményem a 「総合日本語」 órán volt. Ezen az órán az előbb említett szeminárium, vagy egy cikk elolvasása, interjú készítése után a csoport minden tagjának 5 perces beszámolót kellett tartani a többiek előtt, amit minden csoporttársnak a CEF-R szintek szerint kellett értékelnie. Mivel videó felvétel is készült a beszámolókról, ezt megnézve a beszámolót tartónak is értékelnie kellett saját magát.

Abban a csoportban, ahová én kerültem (és ahová mind a hat európai került) a JLPT 2-es és 1-es vizsgájával rendelkező kollégák voltak, mégis nagy ámulatomra osztályfőnökünk a JF-Standard alapján a B1-B2 szintet jelölte meg a csoport aktuális szintjéül, ahonnan - a továbbképzés segítségével - a C1 lesz a következő cél.

A csoporttársak értékelése megoszlott: akik itt hallottak először a CEF-R-ról, azok a „japán-verziójú” szintezés szerint értékelték, akik viszont már előzetesen is hallottak erről a rendszerről, azok ettől eltérően. Nem vagyok szakértője a területnek, de az eddig tanultak, és a májusban érettségizett diákjaim által elért szint felidézésekor ijesztőnek és veszélyesnek tűnt ez a feltűnően nagy értelmezési különbség. Minden lehetséges fórumon próbáltam magyarázatot találni erre az általam ellentmondásosnak vélt problémára, (aminek köszönhetően az utolsó beszámolómról már C1 besorolást kaptam ☺), de sajnos azon kívül, hogy még csak ennek a rendszernek a tanulási időszakában vannak, mást nem tudtam meg.

Az urawai központban évente több, mint 300 nyelvtanár vesz részt különböző továbbképzéseken. Én is szeretném megköszönni a lehetőséget.

(A szintezés témájáról érdemes lenne az MJOT keretein belül is beszélni, ha van rá lehetőség.)



「写真：国際理解セミナーの参加者」

## ハンガリーでの 5年半

松浦依子 (旧姓：角田)

日本に帰って5日が経ちました。台風が去り、すっかり晴れ渡った秋空を窓越しに眺めながら、ハンガリーで過ごした5年半を懐かしく思い出しています。

私事ですが、私が日本語教師になりたいと思ったのは16歳、高校2年生のことでした。初めての海外、留学先のニュージーランドで日本語教育現場を目の当たりにし、「よし！私は将来日本語教師になろう。」と心に決めました。念願の日本語教師デビューは23歳の時。準備に追われる毎日、「想像していた仕事とは違うなあ…」と思ったのを覚えています。3年目、ようやく仕事にも慣れてきたところに韓国での赴任が決まり、25年間住んでいた実家を出ることに。韓国で生まれて初めて一人暮らしを経験し、実家のありがたみをしみじみと感じました。2年間の韓国生活が終わりに近づいたある日、出身大学の先生から「ハンガリーの話があるけど、どう？」と連絡がありました。韓国3年目、新しい大学への就職も決まっていたが、『ハンガリー』という響きが心に残り、「この機会を逃したら一生ハンガリーに行けないかもしれない。」と、その日のうちに「行きます。」と先生に返事をしたのでした。こうしてめでたく2006年3月、ハンガリーに赴任することになりました。

ハンガリー1年目、まずは大学生の大人っぽさに驚きました。「これはどういうことですか。説明して下さい。」と納得するまでひかないELTE大学の学生さんの前で、何度冷や汗をかいたことか…。徐々に、学生さんたちの懐っこい笑顔や意外に幼い一面を見つけてホッとしたものです。同僚にもめぐまれた楽しい大学生活は1年半で終わりをづけ、続いて国際交流基金での仕事が始まりました。

『教材作成』は大ベテランの先生方の指導の下、「とにかくついていく！」それだけで必死でした。多くの方が関わっているプロジェクトですし、自分が足を引っ張ってはいけないと思う一方、自分の能力では処理しきれないことが多く、本当にたくさんの方々にご迷惑をおかけしてしまいました。(私自身はいろいろなことを学ぶことができた、大変充実した2年間でありがたかったです…。)先日、無事に1冊目が出版されました。皆様、本当にお世話になりました。

最後の2年間、私は専業主婦としてハンガリーで過ごすことになりました。滞在ビザの関係で仕事はできず、時々キャンプやスピコンでお手伝いする程度でしたが、いつもMJOTの方々のパワフルな活動に胸を躍らせていました。「やはり日本語教師という仕事はいい。はやく復活したい！」と、あらためて感じた2年間でした。

大きくなったお腹をさすりながら(妊娠7カ月目に入りました。)実家にいると、ハンガリーですごした5年半がずいぶんと昔のことに思えます。しばらくは出産、子育てで日本語教師生活から遠ざかってしまいますが、また復活できるよう頑張りたいと思います。いつか、子供を連れてハンガリーにも遊びに行きますので、その時は皆様どうぞよろしく願いいたします。

5年半、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



写真左：ハンガリーの民族衣装を着て

**運営委員会より****① MJOT2011年定例総会**

日時: 10月1日(土)16:30~18:00

場所: 国際交流基金Bp.日本文化センター

正会員48名中17名の出席(+委任状7通)で定例総会を開きました。議事録はMJOTのMLで流しましたので、ご参照ください。2011年10月~2012年9月までの運営委員は留任となりました。どうぞよろしくお祈りします。

**② 問題集の納本**

日時: 2011年8月18日(木)

場所: 国立セーチェニー図書館



MJOT開発教材の「日本語中級問題集」をハンガリー国立セーチェニー図書館に納本しました。

**③ 第12回言語パレード**

日時: 2011年9月2日~4日

場所: ミレナーリシュ



今回はMJOT・もみじ・シロクマ・基金の四者でブースを出し、去年より多いお客さんが来て、にぎやかな三日間でした。応援に来てくださった会員の皆様、ありがとうございました。

**④ ハンガリー剣道連盟主催「日本の日」**

日時: 2011年9月17日(土)

場所: テレーズヴァロシュ高校

第一回ハンガリー剣道連盟主催「日本の日」に浴衣試着の協力で参加しました。次回より同会場でMJOT開発教材の販売もできるように連盟と話し合い、了承されました。

**⑤ 「できるI」出版記念祝賀会**

日時: 2011年9月16日(金)17:00~

場所: アレクサンドラ書店(Nyugati tér 7.)

2008年にMJOTと基金により教科書編集委員が結成され、MJOT会員12名の執筆者によりハンガリーのための日本語教科書「できる」の作成が始まりました。今年八月中旬ようやく「できるI」がNemzeti Tankönyvkiadóより出版され、その出版を記念して、関係者による祝賀会が行われました。「できるII」は2012年春に出版される予定です。「できる」はハンガリー国内の書店、またはインターネットで購入できます。基金とMJOTでは販売を行っておりません。詳しくは下記HPをご参照ください。 [www.jfbp.org.hu](http://www.jfbp.org.hu) または [www.ntk.hu](http://www.ntk.hu)

**研修委員会より**

日時: 11月19日(土)14:00~

場所: 国際交流基金 Bp.日本文化センター

第27回日本語教育研修会を開きます。今回の研修会はこれまでと異なり、「川柳を使った日本語教育」についてです。チェコより基金の日本語教育専門家を講師にお呼びして開かれます。10月中旬にMLで詳細をお知らせします。

**MJOT年会費の納入**

年会費の納入をよろしくお願いいたします!

・正会員: 2,000Ft. ・準会員: 1,000Ft.

・特別会員: 2,000Ft.以上

(会計: ホルヴァート・クロスティナ)

**ご寄稿のお願い**

次号、第25号は、1月に発行予定です。皆様のご寄稿をお待ちいたしております。なお、ご寄稿して下さる方は [hisayoshis@gmail.com](mailto:hisayoshis@gmail.com) (小野) までメールをください。

MJOT 会報 24号

発行: 2011年10月

発行人: ハンガリー日本語教師会

編集: 小野久禎